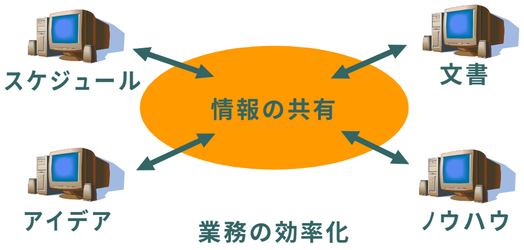
# 校務処理の IT 化　～グループウェアの活用～

情報教育課　長期研修生　江原雅章

グループウェアとは

　グループウェアとはコンピュータネットワークを利用して，複数の人間からなるグループでの情報共有，およびコミュニケーションの効率化をはかり，グループによる協調作業を支援するソフトウェアであり，「グループ活動を助けるためのソフトウェア」であるといえる。グループで共に何かを行うというのは，作業を手分けしてやるというだけでなく，メンバー各人の適性や特徴を最大限に生かし，互いの得手不得手を補いながら相乗効果を高めていくことであり「協働」の目標ということができる。




個人の PC やグループ･サーバーの文書データあるいは極端にいえば個人のメモや頭の中の記憶などの情報をうまく整備し，活用することこそが，業務の効率化つながることになる。グループウェアは，こうした非定型データを共有・流通させ，業務の効率を高めるために必要となっている。

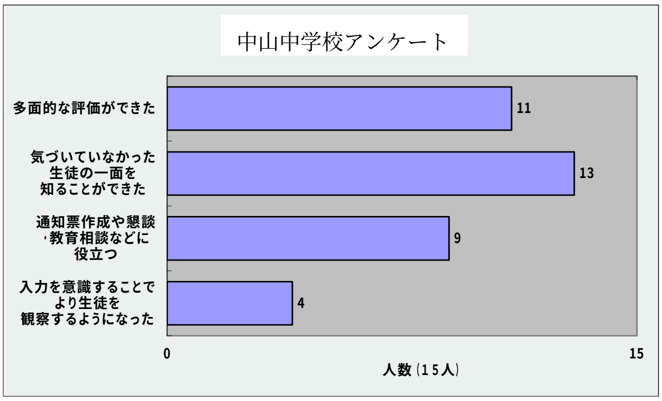
　学校では，教員間の連絡事項，日課，行事，出張，各種成績などさまざまな情報を共有する必要がある。

　校内 LAN に校務で活用するグループウェアを導入することにより校務の効率化が進み，時間不足でなかなか得にくい状況にあった「子供たちとふれあう時間」が増加するなど，充実した指導が可能になると考えた。

グループウェアの活用

　行事などの学校のスケジュール，出張や提出文書といったそれぞれの教員のスケジュールに関する情報を共有することで，手元のコンピュータで情報を得られるようになり，黒板への記入はなくなる。毎日の職朝で行われる連絡事項をコンピュータ上で共有することにより，口頭での連絡は重要なものだけになり，職朝の時間を短縮することができた。「情報の活用」とは自ら情報にアクセスし，必要な情報を選択し，自分のデータとして活用することだと気づくことができた。主体性があって初めて与えら

れた情報は生きる。この職朝の短縮により，朝の忙しさから解放され，生徒たちと余裕を持って接することができるようになった。担任は教室に早くあがって生徒と会話ができるようになり，また担任外は生徒玄関での登校指導に早く行けるようになり，今までよりも多くの生徒の様子を見ることができるようになった。




教科担任や部活動顧問，校長など，それぞれの教員が日常のさまざまな場面で見た生徒の良さを共有する。見ていなかった場面での生徒の良さ，今まで気づかなかった生徒の良さや意外な一面など，多角的多面的に見た生徒の良さを知る事で生徒理解が深まった。また，それを話題にして生徒とのコミュニケーションがとれる。また教師間の会話でも話題となっている。そして，通知票や懇談，教育相談の資料などとして学期末処理の時間短縮にもなり，保護者への情報提供にもなる。

他にも施設利用の情報やアンケートなどの情報を共有し，効率化を図った。

まとめ

グループウェアを活用した校務処理の情報化はさまざまな情報を共有することで業務の効率化につながる。そして効率化によってゆとりの時間が生まれ，生徒とのふれあいの時間の増加になり，生徒に余裕を持って接することができるようになった。アンケートには，職朝の時間短縮により「チャイムまでの間に数人ではあるが会話が交わせるようになった」「休んでいた生徒に『元気になった？』と言える」といった担任の意見があった。

また，多面的多角的に見た生徒の良さを共有することにより，生徒理解が深まり綿密な指導が可能になる。入力を意識することで，全職員で生徒のいいところを見ていこうとする姿勢，目立たない生徒にも目を向けて，いいところを見ていこうという教員の意識の変容も見られた。生徒のよいところを見つけていこうとすることで，否定的な評価観から肯定的な評価観へ変わっていった。

生徒の指導に際し必要なデータは何で，それをどのように活用するのかという議論が，もっともっと学校現場でなされること，効率化，利便性の向上を求めると同時に，本質的な課題に向き合い，職員間で議論を積み重ねることで，さらに行き届いた指導が展開されることが大切である。